



THE SOUND MAKER™ (サウンドメーカー) が 卓越した音のレガシーを祝福

ジャガー・ルクルトがヘリテージ・コレクションの 代表的なタイムピースを発表

ジャガー・ルクルトにとって、チャイム機能を備えた腕時計は特別な意味を持っており、過去 150 年以上に渡ってメゾンが誇るコンプリケーションウォッチのポートフォリオにおいて中心的な存在となってきました。1870 年に初代のミニッツリピーターを製造して以来、比較的簡易なアラーム キャリバーから非常に複雑なグラン・ソヌリ、ウェストミンスターチャイムにいたるまで、ジャガー・ルクルトはチャイム機能を備えたキャリバーを 200 種以上も開発してきました。計時の正確さと音質の両方を向上させるためのマニファクチュールの絶え間のない探求は、複数の特許と無数の技術革新をもたらし、20 世紀半ばまでにスイス時計製造業の名だたるブランドの大半にチャイム機能を備えたムーブメントを供給するようになりました。

オルゴールから懐中時計へ

アントワーヌ・ルクルトは時計製造を始める前に、父と機械式オルゴール用の新しいタイプの「オルゴール機構」を発明しました。ペーニュ（フランス語で「楯」）と呼ばれるこのオルゴール機構は、一枚のメタルプレートを楯状に切り出したもので、質の高い美しい音色を作り出し、正しい調律を保つための技術です。この機構のバリエーションが、ほぼすべてのオルゴールで標準として使われています。ジャガー・ルクルトのヘリテージ・コレクションには、1820 年代のごく初期のモデルとして、繊細な装飾が施されたべっ甲の箱に収められたルクルトの「ペーニュ」機構を備えたアイテムがあります。

1833 年に設立されたルクルトのアトリエは、すぐに発明と品質の両方で定評を得るようになります。1860 年代にはカレンダー、クロノグラフ、チャイム機構を組み込んだコンプリケーションウォッチのムーブメントが知られるようになり、最初のミニッツリピーターを開発してからおよそ 10 年後の 1880 年頃、マニファクチュール ルクルトは、標準的な 2 つのハンマーとゴングではなく、3 つのハンマーを備えたミニッツリピーター、キャリバー 19/20 RMS を作り上げました。このキャリバー



は、3つのハンマーによって、ユニークな音色を奏で、3音のチャイムでクォーター（15分毎）を知らせます。

メゾンがその専門技術を拡張していくにつれて、時計職人たちもまた、チャイム機能を備えた時計にオートマタを組み込むようになりました。これらの中で最も人気を博したのは、手足が動くようになっている人形が時計のダイヤルにセットされた**ジャックマール**です。時の刻みと一致するように動く時計のムーブメントによって躍動するこれらのモデルは、チャイムを視覚的に表現しています。ルクルトによる 1890 年代初頭の**ジャックマール懐中時計**の複雑なダイヤルには、エナメルとエングレービングで装飾されたロマンティックな場面に2つのジャックマールが取り付けられています。

1895 年、ジャガー・ルクルトは**サイレント・ストライク・ガバナー**を発明し、特許を取得します。これによって、伝統的なレバータイプの調速機構から発せられる特徴的なノイズ音を消すことに成功し、よりクリアなチャイムが作り出されました。時を経て、作りだされた様々な発明は標準機能となり、ほぼすべてのチャイムウォッチに搭載されます。ヘリテージ・コレクションには、モノプッシュクロノグラフとミニッツリピーターを組み込んだ**キャリバー19 IMCCV** 搭載の **1914 年製懐中時計**が含まれています。

20 世紀初頭、ルクルトは 3 つのコンプリケーションを組み込んだ時計を製造できる数少ないマニファクチュールの1つとなりました。**1910 年製ミニッツリピーター トリプルコンプリケーション**用のルクルト **キャリバー19/20IMCSQ** では、ミニッツリピーター、クロノグラフ、永久カレンダーがクラシックなハンタースタイルのケースに収められていました。

技術的な複雑さに見合った優れたデザイン性を作り出すため、さらに複雑になった時計には装飾的な技巧がよく使用されました。ミニッツリピーターを永久カレンダーやクロノグラフと組み合わせたルクルト **キャリバー17JSMCCRQ** を搭載したこの **1928 年製レピーヌ** スタイルの懐中時計は、スケルトン加工、エナメル装飾、エングレービングといった芸術的な作品を描き出すための素晴らしいキャンバスとなっています。レピーヌとは、1760 年代にさらに薄いキャリバーを製作したフランスの時計師、ジャン・アントワーヌ・レピーヌによって開発された時計ムーブメント構造を意味します。

メモボックス

20 世紀半ば、人々は実用的な機能を搭載する時計をますます求めるようになりました。そこで、ジャガー・ルクルトは自身を持つチャイム機構の卓越した職人技によって、アラーム機構を搭載した腕時計であるメモボックスを開発します。チャイム機能を備えたこの形式のキャリバーでは、ハンマーの非常に速い打撃は、連続的な単一ピッチの音を作り出し、ミニッツリピーターのベルのよ



うなチャイムよりもブザーに近い音となりました。メモボックス（ラテン語で「記憶の声」を意味する）は、70年に渡ってアラーム機構を搭載した腕時計の指標となるモデルであり続けています。

1950年、メゾンは**最初のメモボックス ウォッチ**にキャリバー489を採用、そのデザインはクラシカルで控えめなものでした。ダイヤル上では、可動式のセンターディスクの上で三角形のポインターがアラーム時刻を示し、2つのリューズ（1つは巻き上げと時刻設定用、もう1つはアラーム設定用）がケースサイドに取り付けられていました。

1946年に最初の自動巻腕時計のムーブメントを作成したジャガー・ルクルトは、そのちょうど10年後に**初の自動巻アラーム ムーブメントであるキャリバー815**を発表します。ローターはムーブメントの中央に固定されており、小さな衝撃吸収スプリングが取り付けられた2つのバンパーによってその揺れは制限されていました。

1958年、ジャガー・ルクルトは、メモボックス キャリバー814の2つの新しいモデルを発表。世界で活躍する新世代のビジネスマンのために、**メモボックス・インターナショナル**にはダイヤルのインナーディスクに24時間のワールドタイム表示を組み込みました。**メモボックス・パーキング**は、割り当てられた時間が経過するとブザーが鳴り、自動車の運転手がパーキングメーターの前払い時間を超過した分の延滞料を払わなくて済むように設計されていました。

1959年、レジャーとしてのダイビングの急速な成長とそれに伴う専用時計の需要に応じて、ジャガー・ルクルトは世界初のアラーム付きダイビングウォッチ、**メモボックス・ディープシー (Cal.815)**を発表しました。水中での安全を守る音響シグナルを搭載しており、時計の振動が潜水時間の経過を触覚的に通知してくれます。

1963年に発表され、1968年に日付表示付き (Cal.825) としてリニューアルされた**メモボックス・ポラリス**は、アラームウォッチのダイビング機能をさらに強化したものでした。回転式インナーベゼルが潜水時間の経過を視覚的に表示し、三層構造のケースバックを備えたスーパーコンプレッサータイプのケースが200m防水を確保しながらも、潜水時のアラーム音を強化しています。

1970年、**メモボックス・スピードビート**にジャガー・ルクルトによる新世代の高振動自動巻ムーブメントの第一弾、キャリバー916を採用しました。テンプの振動数を毎時28,800振動に上げることで、ムーブメントはより安定し、正確さが増しました。新しい自動巻き上げ機構には、主ゼンマイを巻き上げるために軸を中心に360度回転するローターを採用しました。

キャリバー918が搭載された**マスター・レヴェイユ**は、1994年に発表されました。この新しいアラーム機構では、ハンマーが以前のようにケースを直接叩くのではなく、ゴングを叩くようになり



ます。これにより、今日までメモボックスのシグネチャーとなっている独自の「スクールベル」の音が生まれました。**マスター・レヴェイユ**は、時計製造業界で最も厳しい社内品質管理プロトコルの1つとして認められている、過酷な1000時間コントロールテストを受けた最初のメモボックスでもありました。

チャイム機能を備えた腕時計の偉大なるレガシーは、ジャガー・ルクルトに今日に至るまで深められた専門知識を提供し続けています。マニユファクチュールによるチャイム機能を備えた時計レパトリーの絶え間のない進化は、187年の歴史を通じてジャガー・ルクルトを突き動かしてきた伝統への深い敬意と革新への尽きることのない探求を体現しています。

Jaeger-LeCoultre: HOME OF FINE WATCHMAKING SINCE 1833

ジャガー・ルクルトは、メゾンの本拠地をジュウ溪谷の静寂な地に置いていることが、ホームとして、その場所への独特の帰属意識を高めています。まさにこの地こそ、ジュラ山脈の比類なき景色に着想を得ながら、果てることのない「内なる炎」に導かれ、グランド・メゾンの精神が生まれる場所なのです。すべての作業がひとつ屋根の下で行われているこのマニユファクチュールでは、時計職人、エンジニア、デザイナー、芸術職人が一丸となって働き、時計に息吹を吹き込みます。揺るぎないエネルギーと、メゾンに属する一人ひとりのコミットメントを日々促している創造の精神が原動力となり、控えめな洗練さと技術的な創造性を培っています。この精神が、1833年以来、1,200以上のキャリアを生み出すパワーの源であり続け、そして、ジャガー・ルクルトをウォッチメーカーの中のウォッチメーカーへと導いているのです。

jaeger-lecoultre.com